

2 学年通信



江戸川区立瑞江中学校

第 2 学 年

令和 8 年 1 月 20 日 第 17 号

● 校外学習大丈夫ですか ●

いよいよ校外学習本番です。「今までの学びを生かして、よりよい校外学習を目指す」と目標を掲げ、これまでの失敗や反省を十分に生かして意義深い校外学習にしなければなりません。

担任から何回もしおりのチェックを受けていましたが、一人一人が行動を把握しているでしょうか。往復の移動もかなり長い時間と距離を、自分で動かなくてはなりません。乗り換えや乗車すべき列車、行先は理解できているでしょうか。ほとんどの人が初めて行く土地だと思います。来年(と言っても半年後です)の修学旅行はもっと行動範囲が広いうえ、かなりみんなの班行動はバラバラになっていくはずで
す。その練習と思って、一人一人が責任ある行動をし、班員に心配をかけないこと、一般の観光客や地元の人たちに迷惑をかけないでよい思い出だけを持って帰るようにしなければなりません。遊びではありません。

先週配布した交通費、チャージしましたか。保護者の受け取りのサインはいただきましたか。封筒を提出しましたか。(封筒出していないと、昼食代もらえなくなる！?)今の時点で、それができていない人、まさかいませんよね。しおりは何回読み込みましたか。もし電車内ではぐれて一人になったらどうしますか。班が分裂したらどうしますか。どこがチェックポイントでしたか。次の行き先はどこですか。電車がアクシデントで止まってしまったらどうしますか。(しおりに答えがあります)心配しすぎることもありませんが、まさかの時に慌てなくて済むように一人一人心がけることは大人になっていくうえで必要不可欠です。班長任せにすることなく、全員がひとつの係の仕事を全うしてください。今回新しく取り入れたのは teams で報告をするということです。そんなことも協力しあってほかの人の迷惑にならぬ様に対応しましょう。成功には失敗ありきですが、そこでどう対応すべきか考えることこそ、みんなの学習です。笑顔で行って笑顔で帰ってきましょう。

まだぼんやりしている人、自分が何の係だったかを思い出しておくことです。当日余計なものは持ち込まないこと。毎日の学校生活と同じです。校外学習の名の通り、学習の場が、学校内ではなく学校外になっただけのことです。持ち物や行動も基本的にはいつもと変わりありません。また頼りになるはずの大人が、必ず近くにいないということが、みんなの緊張感を高めてくれるはずです。自分で正しい判断力をもつことを求められているということですよね。適度な緊張感をもち、周囲を見て適切な行動を！！

そして学習の締めくくりは事後学習です。今回も事前に告知してあります。みんなの行動が有意義なもので、ぜひ多くの人に鎌倉の良さを伝え、味わってほしいと思う感動や気づきを、忘れてしまわないうちに取り掛かれるように当日から準備をしましょう。パンフレットをもらったり、写真を撮ったり、メモをしたりということ、まめにやっておいた方がいいのです。思い出まで宝物です

● 百人一首で先人の心を感じたい ●

今年度はお正月名物、百人一首大会が1, 2年生合同で行われました。国語の授業等でクラスごとには練習を進めてきました。何回も練習を重ねてくると、自分の中でもお気に入りの札ができてくるもので、そこから少しずつ覚えていき、楽しみが倍増してくるのです。国語係が国語科の先生方とたくさんの事前準備をし、進行まで務めることができました。ほかの先生方は読み手を交代でしました。わかりやすい通常の読み方のほか、ラップ調にしてみたり、英語でよんだり、自作の歌を織り交ぜたり、みんなをリラックスさせながら、楽しいひと時となりました。1年生対2年生で行い、1回戦のみ。合同で行ったことで縦割り対決になりました。その結果、縦割りではC組(黄色)が優勝、クラス対抗では2年A組とC組との同率優勝となりました。



もともと百人一首とは平安時代から鎌倉時代にかけて集められたものだといわれています。そしてそれら百首はいずれも「古今和歌集」「新古今和歌集」などから選ばれています。季節を詠んだものをはじめ、恋ものも半分くらいを占めています。もとは鎌倉時代の歌人が、京都に建築した別荘の襖の装飾のために色紙の作成を依頼したものが始まりだそうです。

最後に海老澤先生からの講評で、「昔の人と心を通わせていること、一人で生きているわけではなく、恋に悩み、自然を愛し、残された思いに心を寄せて百人一首を楽しんでください」というメッセージ、改めて日本の誇りある伝統の遊びの一つ、味わってほしいと思いました。

● 31年経ちました ●

この真冬の寒い明け方に近來まれにみる大地震に襲われたこと、もう風化しかけていますが、筆者の教え子や仲間がこの関係者に多くいたこともあり、忘れられない大惨事となりました。1月17日朝5時46分、まだ寝ているときの出来事にびっくりしたとしか言いようがありませんでした。阪神淡路大震災です。6434人が犠牲になりました。まだ行方不明の人もいるそうです。どんなに大きな出来事が起きても、時間と共にみんなの記憶から薄れていくものです。また、当時の悲惨さを伝える人もいなくなっていくのです。関東地方は地震が起きるといわれ続けていましたから、関西は安全だと信じてわざわざ神戸に住まいを移した知人もいました。起床後のニュースで様変わりした神戸の様子に、初めて地震の怖さに気づいたときだったと言えます。現在も全国あちこちで地震が発生しており、大地震の惨事も他人事ではありません。復興が遅れている地域も少なくないという話も耳にします。誰かに責任転嫁できるものでもない自然相手の惨事ですから、苦しみや悲しみもなかなかおさまるものではありません。しかし、その出来事から学ぶこと、新たな課題が必ず見えてくるはずです。犠牲者の無念を私たちは次世代へ伝え、起こりうる災害等に備えるところをもつ必要があります。安心・安全な地域づくり、家族や知人を思い、決して他人事にはしないで考えていきたいものです。

